

ウトナイ湖通信



No.232

2023年9月号



ウトナイ湖野生鳥獣保護センターのバリアフリー木道を歩いていると、カラフルな実が見られる。チューインガムのようなこの実はノブドウ。カラフルな色は、中にある寄生虫の影響と言われている。

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

9月のイベント情報

気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

9月10日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが 40 分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内するガイドウォークです。荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

定員: 10 名程度
対象: どなたでも
(小学生以下保護者同伴)
事前申込: なし。
直接当センターへ



野生動物に学ぶ救護セミナー 専門家によるヒグマの話

9月23日(土) 10:00~12:00

北海道立総合研究機構の研究職員によるヒグマの生態等の講演
定員: 30 名
対象: どなたでも
(小学生以下保護者同伴)
申込: 9/1~9/22 の
開館時間に電話で当センターへ



初心者歓迎! 自然観察で自然保護センターのボランティア体験講座 ~秋の自然情報収集調査体験~

9月24日(日) 9:30~12:00

内容: 前半は当センターのボランティア活動やウトナイ湖の説明、後半は屋外で自然情報収集調査を体験いただきます。ご希望の方は受講後に当センターボランティアとしてご登録していただけます。
定員: 5 名程度 対象: 高校生以上
申込: 9/1~9/23 まで、電話で当センターへ

※当センターのボランティアは本講座を受講した方のみ登録いただけます。



市民ギャラリー 千歳写友会自然展

会期: 9月2日(土)~9月30日(土) 展示: 千歳写友会

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間: 午前 9 時~午後 5 時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



~ ウトナイ湖 ~

- ・国指定鳥獣保護区特別保護地区
- ・ラムサール条約湿地
- ・東アジア・オーストラリア地域
- ・フライングウェイ・パートナーシップ

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



チゴハヤブサ

原因：衝突疑い



搬入直後の様子



強制給餌の様子

7月 18日 市内の道路にて飛べずにいたところを保護され、当センターへ搬送。



明らかな外傷は認めないものの、飛翔ができない状態だった。レントゲン検査でも、骨折等の異常は確認できなかった。



衝突等による打撲としてケアを開始するも、自発採餌をしないため、1日2回強制給餌を行い、体重維持や健康管理に



8月 15日 つとめて経過観察中。

チゴハヤブサ (ハヤブサ目 ハヤブサ科)

全長♂34 cm、♀37 cm。雌雄同色ですが、♂と♀では大きさ(全長)が異なります。北海道へは夏鳥として渡来し、自分では巣を作らず、主にカラスの古巣を利用し繁殖をします。トンボやセミなどの昆虫、小鳥やコウモリなどを捕食します。

トピックス



野生動物に学ぶ救護セミナー 「苫小牧にシマフクロウがやってくる!？」

日本野鳥の会 松本潤慶氏によるシマフクロウの生態や保全活動のセミナーを7月に開催しました。座学だけではなく当施設展示の剥製も使った「シマフクロウが安心して暮らせる環境づくり」等の話に会場も盛り上がり、参加者からもシマフクロウへの熱い想いが多く寄せられました。



レンジャーといっしょに 夏の生きもの探し

7月と8月に日本野鳥の会レンジャーと当施設のボランティアの案内で、オリジナル「夏の生きもの図鑑」を使った観察会を実施しました。夏らしいホザキシモツケ、シオカラトンボ、アオジ等を探しました。参加者からは「もっと長く探したかった」「解説が良かった」等の声が聞かれました。



ボランティアコーナー

「ボランティア体験講座」参加のきっかけを教えてください。

ウトナイ湖に散歩に来た時に、ポスターを見つけ、初めてウトナイ湖野生鳥獣保護センターのボランティア活動がある事を知りました。「自分でも出来る事があるのか知りたい」と思ったのがきっかけです。

ボランティアに登録して良かった点や感想を教えてください。

他のボランティアさんやスタッフさんから教えて頂く事が何でも興味深く、とても楽しいです。四季それぞれの特徴や他の地域の事など、自然環境への関心が広がりました。

最後にメッセージをお願いします！

知識も経験も乏しい私ですが、ゴミ拾いや自然情報収集調査など、できる事を、できる日に参加しています。自分の世界も広がり楽しいですよ！気負わず、まずは体験講座に参加してみませんか？

ボランティア体験講座をきっかけに活動を始めた山下さんにインタビューしました。

【ボランティア活動】山下 恵子 氏



自然情報収集調査で記録用紙に記入する山下氏

ウトナイ湖

お楽しみコーナー

ウトナイ湖

野鳥グッズを作ろう



デザイン:当センター獣医師 山田智子

※アイロンビーズは、カラフルなビーズを並べてアイロンの熱で接着するビーズです。水で接着するアクアビーズでも同じデザインを楽しめます。

ウトナイ湖に秋に渡ってくる「ヒシクイ」を作ってみよう♪写真と同じ位置に、アイロンビーズを並べて作りましょう。

ヒシクイについて知りたい人は、最後のページの「自然情報」をご覧ください♪

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



facebook



Twitter



レンジャーのおすすめ自然情報



【ヒシクイ】

全長 78~89 cm。9月
上~中旬から見られ始め
る。くちばしが黒く大型
で「ガハハン」と低い声で
鳴く。



【ダイサギ】

全長 90 cm。秋から春先
まで見られる。
魚や水生昆虫などを食べる。
湖岸に複数羽が群れて
いる時がある。



【ノシメトンボ】

大きさ 4.2~4.9 cm
8月末から9月に見ら
れる。羽の先に色がつい
ている。枝の先や、木道
の上などに見られる。



【エゾリンドウ】

花の大きさ約 5 cm。湿地
や少し乾燥した草地に咲
く。花の色あいが写真で
は分かりづらいため、実
際に見るのがおすすめ。

湖面が多くの水鳥たちでにぎわいはじめ
ます。その中で、数多くて目立つのはガン
の仲間です。北極圏などで子育てをしていた
ガンの仲間の中で、日本の本州で越冬する
ものの多くは北海道を中継して渡ります。

例年、ウトナイ湖に最初にやってくるのは「ヒ
シクイ」です。昨年は、9月14日に初めて飛来
が確認されました。水鳥以外では、エゾリン
ドウや赤トンボの一種のノシメトンボなどが
秋のウトナイ湖を彩ります。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



facebook



Twitter

自然観察路ガイドマップ【秋】

秋のお薦めポイント

シベリア方面から渡ってきたマガンやヒシクイ、ハクチョウ類、カモ類が湖で水草などを食べたり、のんびりと休息している姿を見ることが出来ます。
林の中はカラフルな木の実や紅葉で彩られ、シマリスなどが冬支度を始めています。

The map shows a winding path through a natural area. Key locations and features include:

- Landmarks:** 野生鳥獣保護センター (Wildlife Protection Center), ネイチャーセンター (Nature Center), 船着き場 (Boat Landing).
- Plants and Flowers:** オオアワダチソウ (外来種), ミソソバ, ナガボノシロワレモコウ, オオハクチョウ, ヨシガモ, ツルウメモドキの実, ハス Capp の小径, マユミの実, アキノキリンソウ, エゾリンドウ, サウキギョウ.
- Insects:** エゾリス, キバナオニグモ, アキアカネ, ノシメトンボ.
- Animals:** シマリス, オナガガモ, ホオジロガモ, キンクロハジロ, ミコアイサ.
- Other:** オタルマップ川, ケヤマウコギの実, ハンゴンソウ, ヤマモミジ, エナガ, マガンのテラス, ハクチョウのデッキ, ツルウメモドキの実, ノブドウの実, キツリフネ, ツルウメモドキの実.

コハクチョウよりも首が長く、
嘴基部の黄色い部分が多く
先が尖っているのが特徴です。

日中、湖でのんびり
している姿を見られ
るのは秋だけです。